

平成28年度 綾部市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成28年11月4日(金)
開会 15時00分 閉会 17時00分
- 2 会 場 綾部市役所 まちづくりセンター第1会議室
- 3 出席者 綾部市長 山崎 善也
綾部市教育委員会
教育長 足立 雅和
委 員 山田 昭
委 員 四月朔日 伸子
委 員 小南 直美
委 員 波多野 芳雄
(事務局関係)
福祉保健部長 四方 裕之
企画政策課長 岩本 正信(企画財政部長代理)
教育部長 岡垣 美樹
教育部参与 家元 優
教育部参事 小林 治
学校教育課長 飯室 誠
社会教育課長 塩見勲生
文化・スポーツ推進課長 村上哲也
学校教育課長補佐 森本重則
学校教育課課長補佐 斉藤 さおり
- 4 協議事項 (1) 学力向上について
(2) 英語検定について
(3) 放課後子ども総合プランについて
(4) スポーツ推進委員、スポーツ少年団本部の活動について
- 5 議事の概要
○ 開 会

○ 綾部市長挨拶

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、昨年度、本市において綾部市教育大綱を策定しました。その具現化に向け、市全体として充実した教育行政の推進を図っていかねばならないと考えております。

また、この総合教育会議の設置には、市長部局と教育委員会が密に連携しながら、より実効性があり、よりスピーディーな形で諸課題に対応していくことが求められています。本日も教育委員の皆様方と同じテーブルについて、対話をし、本市教育について議論を深める場が持てることは、大変意義深いことであるとと考えております。

綾部市の教育現場において、それぞれの学校で大変な時期がありました。それを何とか解決しようと高い志と熱意を持って取り組んでこられた現場の先生方、また、それを支えた教育委員会の取り組みの結果、現在では落ち着いた良い雰囲気の良い学校になってきました。この良い雰囲気を継続していくためには、先生方個人に頼るのではなくシステムとして構築していかねばならないと考えます。問題が発生しそうな兆しが見えた時には、早目の対処が組織としてできるように体制を整え、継続していく仕掛けを知恵を働かせて構築していかねばならないのではないかと思います。

本会議が綾部市の教育行政の更なる充実・発展に寄与することを期待しまして、開会の挨拶といたします。

○ 協議事項

(1) 学力向上について (事務局説明)

<議長：綾部市長>

ただいまの説明につきまして、ご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

<波多野委員>

小学校での学力診断テストでは良い成績であるのに、中学校では上向きではあるものの小学校に比べてあまり良くないということについて考えてみますと、私は小学校にいくらか責任があるのではないかと思います。

小学校での得点は高いとはいうもののその背景に何かあるのではないか、その背景にあるものを探っていないといけないのではないかと思います。

単に中学校で学力をつけるような取り組みをしていないからというのだけではないような気がしています。

<市長>

京都府の学力テストと全国の学力テストと何が違うのですか。何が違うからこのような差があるということなののでしょうか。

<教育長>

京都府の学力診断テストは、診断テストの対策問題が解ければできるというような傾向にあります。それに対して全国学力テストは高い次元を目指していて、これから子どもたちにどのような力をつけていくのかという観点で、先を読んだような問題があり、なかなか傾向を捕まえて対策を打ちにくいと言えます。

学校教育研究会や確かな学び育成会議といった学校外の組織の中で、地道な取り組みをして学力をつけていかなければならないと感じています。

<山田委員>

教育委員会事務局で把握はしていると思いますが、小学1年から中学3年までの経年の学力を見直していただいて、どの学年のどこで学習上のつまづきが拡大しているか研究する必要があるのではないかと考えます。

<市長>

経年の学力については事務局で把握しているのですか。

<事務局>

各学校で個別につかんでいますし、小学校と中学校と連携してもいます。その上で、市教委にも報告が上ってきています。

(2) 英語検定について (事務局説明)

<市長>

この件に関しまして、何かご意見はありませんか。

<教育長>

平成21年に初めて公費負担で英検を実施し、生徒が受検することについては一定定着をしました。昨年度からは、合格するための対策をしようということで学校教育研究会英語部会と連携して、「エース検定」、「綾部チャレンジングリッシュ」という綾部市独自の問題集や試験を学期に数回行うようになり、検定に備えるようになりました。

国として平成36年度に合格率60%を目指しています。綾部市では今後の取り組みとして、全員が受検することは定着しましたので、次は3級にチャレンジすることを目指しています。

<四月朔日委員>

生徒全員が受検するという機会を与えてもらわないとなかなか受検できないですので、今後もこの取り組みを継続していただきたいです。

<市長>

これについては非常に順調に取り組んでいただいていることがわかりました。

(3) 放課後子ども総合プランについて（事務局説明）

<市長>

今の説明についてご議論をお願いします。

<教育長>

文部科学省所管の放課後子ども教室については、ボランティアの方に非常にお世話になっております。この事業を全小学校区で行っている市町村は多くはありません。厚生労働省所管の放課後学級は、平日の放課後に加えて、夏休みだけの通級、土曜日の開設、開設時間の午後6時30分までの延長、対象者の小学6年生までの拡大というように事業規模が膨らんできて、場所や人の確保が非常に難しい状況にあります。

<市長>

所管が違う2つの事業がありますが、重複はせずにお互い補完しながら行っているということですか。

<教育長>

事業内容としては重複していませんし、児童はどちらにも参加できます。

<事務局>

文部科学省所管の放課後子ども教室については、体験活動に重きが置かれています。地域の方々の力をお借りして、昔遊びをするというような教育的要素が多分に入っています。それに対して、厚生労働省の放課後学級については、放課後の安全対策という意味が強いと考えるので、教育委員会としてはこの2つの事業があるということは子どもたちにとっては大変プラスになることと考えております。

放課後学級は有料で保護者負担をいただいて運営していますし、放課後子ども教室は原則無料で参加したい子が参加するという形です。地域の方の協力を得てというところで、地域の教育力として、サポーターの方々が地域の子どものために頑張っていただき、それが張り合いになっているという面がありますので、この2つに事業は両輪となってくると考えています。

<教育長>

放課後子ども教室は社会教育的な意味が高く、放課後学級は子育て支援という福祉的な部分が大きいです。

(4) スポーツ推進委員、スポーツ少年団本部の活動について（事務局説明）

<市長>

今の説明に対して何かご意見はありませんか。

<小南委員>

他市では少年野球は各団体において野球肘や野球肩にならないか等、けが防止の観点から検診をされているように聞きましたが、綾部市ではスポーツ別に指導はされていますか。

<事務局>

野球肘については、昨年、一昨年と綾部市立病院の先生に出向いて診てもらいました。また、指導者研修会において、けがの防止等指導者に対して講習をしています。

<市長>

スポーツ少年団に加入するメリットは何ですか。

<事務局>

指導者の資質の向上です。指導者研修を受けたり、他の団体の指導方法を学んだりできますし、子どもたちは、他の種目の子どもとの交流もできます。全団を対象に交流会や体力テスト会を行っています。

<波多野委員>

子どもの活動時間や練習時間について申し合わせはあるのですか。

<事務局>

指導者研修会において適切な指導方法や練習時間について研修をしています。

<市長>

全国的にこのスポーツ少年団は根付いているのですか。

<事務局>

日本体育協会の中に日本スポーツ少年団という組織を作って、そこから普及していますので根付いています。

<市長>

それでは、全体を通じて何かご意見はありませんか。

<山田委員>

学力向上に向けた取り組みの成果が見えてきて嬉しく思います。学力をつけて綾部市からいったん出たとしても、いずれは綾部に帰ってきて活躍してくれるようにふるさと教育の取り組みを強化して、綾部に誇りを持てる子どもを育てることが必要だと思います。

また、綾部に戻って来られるよう働くところの確保、企業誘致にも力を入れていただきたい。綾部市の教育を市内外に向けて発信したり綾部のスローガンを掲げてその目標に向かって頑張っていることがアピールできたりすればよいと思います。

<波多野委員>

学力向上の協議の中で、家庭を含めて8コマという取り組みについて、8コマを全部学校が面倒を見なければならないという発想では学校の負担が大きいので、「学校では6コマはきちんとしますのであとの2コマは家庭でするんですよ」という家庭も学校も一緒になってPTAも巻き込んだ取り組みをしていかないと学校も疲弊してしまうのではないかと考えます。そういう意味で「子育てをすまじ綾部」とか「地域全部で育てるまじ綾部」というような動きがほしいと思っています。

<小南委員>

国としても共働きを後押ししていて、どんどんお母さんが働く時代になって放課後学級の需要が増えています。仕事から帰ってきたお父さん、お母さんが子どもの勉強を見ようと思った時に、学校ではこんなことをしていますよという学校の情報がたくさんあると、それを基に、お母さんが料理をしながらでも子どもに声をかけることができるので、家庭教育としてはずいぶん違うと思います。

親も学校もそれぞれの立場で頑張っているのだから、その後押しを行政や教育委員会ができたらいいと思います。

<四月朔日委員>

保育園も待機児童がなく、放課後学級もうまく運営していただいていますことを大変ありがたいと思っています。子どもたちにとって、放課後学級は必要な場所なので今まで以上に充実していただけたら嬉しいと思います。

<市長>

以上で本日の協議事項につきましては終了いたします。

○ 閉 会

教育長挨拶

本日は極めて充実した有意義な話し合いができたと思っております。

本市の3つの特色ある教育である「ふるさと教育」、「キャリア教育」、「国際理解教育」の更なる展開を求めて、前向きに新しい施策や事業に取り組んでいくことが必要であり、今後は、中学校ブロックごとに新たな校風を作り上げたいと考えています。

また、現在は、新市民センターの建設、国宝二王門の修復事業、放課後学級・地域未来塾の開設や充実等新たな大きなプロジェクトにも次々と取り組んでお

ります。

今後においても、市長はもとより市長部局との連携を密に図り、同じ価値観と方向性を持って、本市及び本市教育の充実・発展のために精一杯尽力していきたいと思っておりますので、どうかよろしくご願ひ申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。